



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～モチノキ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

モチノキは、前回紹介したモッコクとともに「庭木の王」とされている庭園木で、古くから植栽されています。また、この樹木の樹皮からとれる鳥もちは、小鳥や昆虫を捕まえる際に利用されていたことでもよく知られています。

1 特徴

山形県と宮城県以西の本州、四国、九州、沖縄、中国、台湾に分布する常緑性の樹木で、育つと10m以上の大木になります。成長がゆっくりしているため、放任してもある程度まとまった樹形になります。剪定に強いので、手を入れれば様々な形に仕立てることができます。写真1はその一例です。

日当たりを好み、やや粘土質で保水性と養分のある場所が理想的です。しかし、半日陰でも育つため家の北側にも植栽することができます。

イチョウと同じように雌株と雄株があります。雌株は、花後に径1cmほどの丸い果実をたくさん付け、秋には真っ赤に熟します(写真2)。雄株は当然のことですが、実はありません。

モチノキによく似た樹木にクロガネモチがあります。間違いやすいのですが、若い枝が紫色を帯びていたらクロガネモチであり、そうでなければモチノキです(写真3)。

2 維持管理

枝葉が密生してくるとカイガラムシが発生しやすくなり、大発生すると樹勢が衰えます。この虫の排出物にはスス病が寄生し、葉が黒くなり、光

合成能力が著しく低下するため、樹勢がさらに衰えることとなります。この被害を防ぐためには、カイガラムシの防除が大切です。マツグリーン液剤2などの浸透移行性殺虫剤で対応してください。

また、富山市内の民家のモチノキでは2017年に葉が黄変する被害が発生しましたが(写真1左)、その年だけの現象で、翌年以降、そのような現象はまったく見られていません。黄変の原因については現在でも不明なままです。このような被害がありましたら、ご一報ください。お願いします。



写真2 モチノキの実 2011.11.17 県中央植物園



写真1 剪定によって整えられたモチノキの樹冠と樹高
左：2017.8.10 右：2021.10.1



写真3 モチノキとクロガネモチの違い。クロガネモチは、若い枝が紫色。

左：モチノキ 2011.11.17
右：クロガネモチ 2010.10.29